

あまねく

amaneku

2017 vol.7



同志社大学 障がい学生支援室

「あまねく」第7号発刊によせて

障がい学生支援室長
梶山 玉香



障がい学生支援広報誌「あまねく」は、障がい学生支援室での取り組みや学生スタッフ、利用学生の様子を多くの人に知っていただくためのものです。今年で、第7号となります。

2016年4月、障害者差別解消法が施行されました。同法により、私立大学も合理的配慮の提供につき、努力義務が課されています（8条2項）。

合理的配慮の内容は、大学が一方的に決めるのではなく、大学と学生との「建設的対話」を経て、可能な限り、両者の合意により決定するのが望ましいとされています。

施行の前年に策定された「文部科学省所管事業分野における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応指針」では、「合理的配慮の内容の決定が困難な場合は、第三者的視点に立ち調整を行う組織が必要となるため、このような組織を学内に設置すること」を求めています。これを受け、本学は、昨年度、「同志社大学障がい学生支援調整委員会に関する申合せ」を制定しました。今春より、学生と大学との間で、合理的配慮の合意が成立しない場合には、法律や福祉の専門家等により構成される「障がい学生支援調整委員会」で解決を図るよう、体制を整えました。

しかし、こうした委員会による解決は、あくまでも「最後の手段」です。

大学は、障がいのある学生からの申出に対して真摯に応じ、場合によって、学生のニーズを引き出すための働きかけを行い、「教育の本質」を変更しない範囲で、内容や方法の変更を検討し、柔軟に対応しなければなりません。その際、専門知識や経験にもとづいて配慮内容を提案し、対話の「仲介」をして合意へ導き、具体的な支援の手配を行う障がい学生支援室の責任は、大変重いと感じています。

本年3月、「障害のある学生の修学支援に関する検討会報告（第二次まとめ）」が公表され、その中で示された「社会で活躍する障害学生支援プラットフォーム形成事業」も、今夏より動き始めました。

障がいのある学生を取り巻く環境が大きく変わる中、本誌が、本学の教職員、学生だけでなく、全国の障がいのある学生・生徒の皆さん、障がい者支援に関心を持ち、あるいは、実際に携わられている皆さんへの情報提供としてお役に立てば幸いです。

2017年11月



目 次

「あまねく」第7号発刊によせて	02
〈大学内行事開催状況〉.....	04
04...入学式手話通訳／入学式パソコン通訳／卒業式手話通訳／春学期顔合わせ会／ 秋学期顔合わせ会／春学期制度説明会	
05...新入生歓迎会／ランチタイム手話／春学期フォローアップ勉強会	
06...ガイドヘルプおよび車椅子介助の講習会／秋学期フォローアップ勉強会	
07...春学期末懇談会／秋学期末懇談会	
08...第12回 Challenged キャンプ	
10...オープンキャンパス／同志社京田辺クリスマス燭火讃美礼拝	
11...障がい学生へのキャリア形成プログラム「自立支援：成績配布」／第1回就職ガイダンス／ 自己分析セミナー／エントリーシートセミナー／SPI セミナー／自己分析セミナー／ 大学院生のためのガイダンス／業界研究（各論）セミナー／仕事研究セミナー／ SPI3・一般常識試験対策講座／業界研究（各論）セミナー／Uターン・Iターンセミナー／ 仕事研究セミナー／公務員業務説明会／SPI3・一般常識試験対策講座／第2回就職ガイダンス／ 公務員業務説明会／障がい学生対象 就職ガイダンス&相談会	
12...公務員業務説明会／エントリーシート講座／仕事研究セミナー／内定者に就職活動体験談を聞く会／ 第3回就職ガイダンス／障がい学生へのキャリア形成プログラム「同志社大学生協インターンシップ」／ 就職体験を語る・聞く会／障がい学生へのキャリア形成プログラム「成績通知書・登録書類交付」	
〈社会貢献事業〉.....	13
13...第25回障害者シンクロナイズドスイミングフェスティバル／ 上京区憲法月間 映画のつどい／第1回上京区ふくしをなんでもしっとこ講座／ 第2回上京区ふくしをなんでもしっとこ講座	
14...複合領域科目「コミュニケーションのバリアフリー」を考えるー共に生きる社会をめざしてー／ プレ・さかの映像祭／大阪府立中央聴覚支援学校ー高等部の同志社大学見学	
〈連携事業〉.....	15
15...日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）特別プロジェクト	
16...7 大学学生交流会	
〈同志社大学障がい学生支援室について〉.....	17

大学内行事開催

●入学式手話通訳

日時・場所：2016年4月1日（金）
京田辺校地 デイヴィス記念館
協力スタッフ：2名

●入学式パソコン通訳

日時・場所：2016年4月1日（金）
京田辺校地 デイヴィス記念館
協力スタッフ：8名



●卒業式手話通訳

日時・場所：2017年3月20日（月・祝）、3月21日（火）
今出川校地 同志社女子大学 栄光館
2017年3月22日（水）
京田辺校地 デイヴィス記念館
協力スタッフ：8名（障がい学生支援室コーディネーター含む）

●春学期顔合わせ会

日時・場所：2016年4月5日（火）
京田辺校地 頌真館 202 教室
今出川校地 臨光館 303 教室
参加者数：46名（京田辺）、56名（今出川）



●秋学期顔合わせ会

日時・場所：2016年9月28日（水）
京田辺校地 情報メディア館 406 教室
今出川校地 良心館 307 教室
参加者数：50名（京田辺）、35名（今出川）



京田辺・今出川の各校地において、春・秋学期前に顔合わせ会が実施されました。顔合わせ会では、障がい学生支援制度に登録している利用学生とサポートスタッフが一堂に会し、各学期の支援開始のための制度注意点や活動可能時間の確認、登録書の提出を行いました。

●春学期制度説明会

日時・場所：2016年4月13日（水）、4月20日（水）、4月27日（水）
京田辺校地 成心館 206 会議室
今出川校地 寒梅館 1A 会議室
参加者数：5名（京田辺）、20名（今出川）



● 新入生歓迎会

日時・場所：2016年5月13日（金）
京田辺校地 教職員食堂「リブレ」
2016年5月18日（水）
今出川校地 志高館地下ラウンジ
参加者数：44名（京田辺・教職員含む）、
26名（今出川・教職員含む）



● ランチタイム手話

日時・場所：開講期間中 毎月第2・第4火曜日 京田辺校地 成心館 206 会議室
毎月第2・第4木曜日 今出川校地 寒梅館ミーティングブース A
参加者数：約15名/回
講師協力：4名

2016年度 みなもランチタイム手話に参加しませんか？

手話体験
聴覚障がい学生生活環境では、開講期間中機会をとりながら、楽しく手話を学べる機会を設けています。ぜひみなも参加していきましょう！

- 4月のスケジュール
【京田辺】 4/22(火) 4/24(木) 4/26(土)
【今出川】 4/24(火) 4/26(木) 4/28(土)
- 5月のスケジュール
【京田辺】 5/14(火) 5/24(火) 5/26(木)
【今出川】 5/14(火) 5/24(火) 5/26(木)
- 6月のスケジュール
【京田辺】 6/14(火) 6/24(火) 6/26(木)
【今出川】 6/14(火) 6/24(火) 6/26(木)
- 7月のスケジュール
【京田辺】 7/14(火) 7/24(火) 7/26(木)
【今出川】 7/14(火) 7/24(火) 7/26(木)

京田辺校地：成心館 206 会議室
今出川校地：寒梅館ミーティングブース A



● 春学期フォローアップ勉強会

日時・場所：2016年4月28日（木）～7月22日（金）京田辺校地
2016年5月10日（火）～7月27日（水）今出川校地
参加者数：423名（京田辺延べ）、75名（今出川延べ）



2016春フォローアップ勉強会【京田辺校地】

※ 聴覚障がい学生生活環境では、開講期間中機会をとりながら、楽しく手話を学べる機会を設けています。ぜひみなも参加していきましょう！

開催日時	開催場所	講師	参加費	申込
4月28日(木)	成心館 206 会議室	聴覚障がい学生生活環境	無料	聴覚障がい学生生活環境
5月10日(火)	寒梅館ミーティングブース A	聴覚障がい学生生活環境	無料	聴覚障がい学生生活環境
5月22日(日)	成心館 206 会議室	聴覚障がい学生生活環境	無料	聴覚障がい学生生活環境
6月3日(金)	寒梅館ミーティングブース A	聴覚障がい学生生活環境	無料	聴覚障がい学生生活環境
6月15日(木)	成心館 206 会議室	聴覚障がい学生生活環境	無料	聴覚障がい学生生活環境
6月27日(火)	寒梅館ミーティングブース A	聴覚障がい学生生活環境	無料	聴覚障がい学生生活環境
7月9日(土)	成心館 206 会議室	聴覚障がい学生生活環境	無料	聴覚障がい学生生活環境
7月22日(金)	寒梅館ミーティングブース A	聴覚障がい学生生活環境	無料	聴覚障がい学生生活環境

※ 聴覚障がい学生生活環境では、開講期間中機会をとりながら、楽しく手話を学べる機会を設けています。ぜひみなも参加していきましょう！

※ 聴覚障がい学生生活環境では、開講期間中機会をとりながら、楽しく手話を学べる機会を設けています。ぜひみなも参加していきましょう！

※ 聴覚障がい学生生活環境では、開講期間中機会をとりながら、楽しく手話を学べる機会を設けています。ぜひみなも参加していきましょう！

聴覚障がい利用学生：杉村剛生 (理工学部・1年次生)

僕は障がい体験講座で聴覚障がいを扱った回から参加した。聴覚障がいについて学ぶ回では、僕ともう一人の聴覚障がい学生が実体験を話したが、そのことで自分の障がいについて改めて考えることができたし、皆に知ってもらうこともできたので、その回を設けてもらえて嬉しかった。

障がい体験講座で初めて「高次脳機能障がい」について知り、今までは自分を障がい者の基準にしていたが、自分だけでなく様々な人がいることを理解した。自分を障がい者の基準にして考えてはいけないと思った。

●ガイドヘルプおよび車椅子介助の講習会

日時・場所：2016年9月28日（水）
今出川校地 寒梅館地下A会議室、ハーディーホール
参加者数：36名



今出川校地 寒梅館地下A会議室とハーディーホールにおいて、今年度も、ガイドヘルプおよび車椅子介助の講習会を開催しました。

これはコンサートや講演会などを開催するクラブ・サークルが寒梅館ハーディーホールを利用する際、来場者の中に障がいのある方や歩行困難な方がいる場合を想定し、気持ちよく催物を楽しんでいただくための講習です。ホールアートのスタッフやホールを使用する学生団体および学内関係者36名が参加しました。

【参加者の声をご紹介します】

交響楽団：西村 杏香 (生命医科学部・3年次生)

アイマスク体験や車椅子体験で感じたことは、普段健常者が気にならないような段差や階段も、障がいのある方にとってはとても厄介なものになるということです。

実際にアイマスクをつけてみると意外と段差が低くても幅の広い階段が怖く感じるということがわかり、また誘導される側になってみてどういう誘導が適切かわかりました。

車椅子体験では、石畳を段差として感じ、介助の方がいないと扉を開けたりすることも困難で、車椅子に乗られている方は、一人でハーディーホールに行きづらいことを身をもって学びました。

いろいろな方々が自分たちの演奏会に来てくださることは本当にありがたいことであり、来ていただくからにはご不便をできる限り少なくする配慮をしなければなりません。

実際に体験することで、今までよりもお客様の立場にたった誘導ができるようになり、とてもいい機会になりました。

ホールアート (HA)：井尻 早紀 (文学部・3年次生)

アイマスクをつけて目の見えない体験をした時には、やはり実際に目の見えない立場になってみるとわからないことがたくさんある、ということがわかりました。

まず、段差がある時や階段が始まる時に声をかけるというのは体験をしなくてもある程度想像できるのですが、階段が終わるといことや今からどうやって目的地まで行こうとしているかということについてもお声かけが必要だということは、自分が実際にやってみないとわからないことでした。

また、車椅子の介助では、ハーディーホールからクローバーホールに行く時を通るガラス扉が車椅子の方にとってはギリギリ通れる幅で、足や車輪をぶつけないように気をつけたいといけないことやトイレの扉が車椅子の方でも入りやすいように工夫されていることがわかり、今後ホールアートのスタッフとして仕事をしていく上で参考になることがたくさんありました。

車椅子のたたみ方や乗る時の注意点など、ささいなことでも知っておくと使える時があると思いますし、短い研修ではありましたが参加して良かったです。

ホールアート (HA)/ 演劇集団 Q： 西井 桃子 (社会学部・2年次生)

私はホールアートのスタッフであると共に、演劇サークルで制作を担当しています。制作とは本番までの宣伝や当日の受付など、劇団とお客様をつなぐ仕事のことです。

私たちが制作活動をする中でいつも気になっていたのは車椅子に乗って来られるお客様のことでした。

実際に、私が関わってきた公演の中でお客様として来られたことはまだないのですが、これまでの私のスキルと席配置では車椅子に乗って来られるお客様をスムーズにご案内することができないとわかりました。

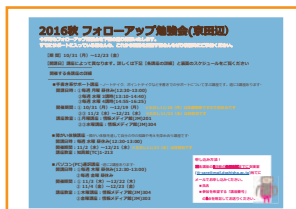
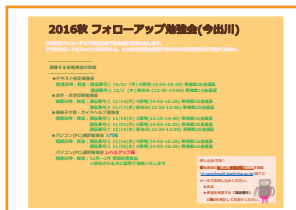
今回このような貴重な機会をいただき、車椅子に乗って来られるお客様にとって何が心地よい入場であるかわかりました。この研修を活かして、寒梅館はもちろんのこと、小ホールで催すような小劇場にも気軽に足を運んでいただける、そんな気持ちの良い運営ができればと思います。

●秋学期フォローアップ勉強会

日時・場所：2016年10月31日（月）～12月23日（金）京田辺校地
2016年10月31日（月）～11月30日（水）今出川校地
参加者数：150名（京田辺延べ）、66名（今出川延べ）

サポートスタッフ 障がい体験講師： 清水元貴 (生命医科学部・2年次生)

今学期は自分にとって変化の時期で、初めてサポートに入り、初めて講師の活動もした。これまでは「この障がいだったらこのサポートというふうに決めてしまっていることが多く、自分は障がいに対して視野が狭かった。今は講座やサポート活動を通じて、それぞれに応じたサポートが必要だと知った。そのためにはコミュニケーションが大切なので、これからも頑張ってコミュニケーションを取りたい。



●春学期末懇談会

日時・場所：2016年8月4日（木）14：30～17：00

京田辺校地 恵道館106教室

参加者数：79名（教職員含む）



●秋学期末懇談会

日時・場所：2017年2月13日（月）14：00～17：00

今出川校地 志高館地下ラウンジ

参加者数：82名（教職員含む）



学期末懇談会

春学期末の懇談会は京田辺校地で、秋学期末の懇談会は今出川校地で開催しました。この懇談会は、障がい学生支援制度の利用学生と支援スタッフを中心に、支援活動における個々のケースについての意見交換を通じて制度の充実を図ると同時に、障がい学生と支援スタッフ等の交流を深めることを目的としています。

春学期を振り返って、スタッフからは「自分のサポートに問題がないか、利用学生（障がい学生）さんに尋ねたときは「大丈夫」と言ってもらいましたが、何か思っていることや気になることがあれば遠慮なく言ってほしいです」「一般の学生がエレベーターを使っていて、車椅子に乗っている学生さんが降りにくい状況をわかってもらえなくて困りました」といった意見が、利用学生からは「サポートスタッフへの最初の第一声の言葉かけやコミュニケーションをとることが難しかったです」「私は聴覚障がいがありパソコン通訳をお願いしていますが、先生の話すスピードが速くて通訳（タイピング）が追いつかないのが、声小さくて聞きづらいのが、通訳スタッフさんが何で困ってどこが大変なのか、聞こえない自分では判断ができないことが悩みどころです」との意見があり、貴重な懇談の場となりました。

また、怪我によりサポートを受けた学生からは「入学前からの怪我で、車椅子を使わざるを得なかったのですが、サポートを受けることができたおかげで無事に入学前後の行事を終えることができました。サポートを通して1年生の友人もでき、「怪我が治ったら一緒にサポートスタッフをやろう」と誘われたこともとても嬉しかったです。自分の怪我を振り返ってみると、サポートスタッフの方にも気持ちよく支援してもらうために、感謝の言葉を意識的に述べるようにしたことで、コミュニケーションを高めることができたと思います」との声もありました。

秋学期末の活動報告からも「どのようにサポートすればよいか不安があったが、サポート改善のための意見交換をすることができたのは非常に良かった」「パソコン通訳で最初は先生の話すスピードに追いつくことができなかったが、自宅でタイピング練習をし、ペアの先輩スタッフにアドバイスをもらう中で、徐々に追いつくことができるようになった」等、お互いの関係性やコミュニケーションに関する声が多く挙がりましたので、『相手が存在する支援』をテーマに、秋学期の自身の活動や受けたサポートについてKPT法（Keep→Problem→Try）を用いて振り返りました。



●第12回 Challenged キャンプ

日時・場所：2016年9月12日(月)～9月14日(水)

兵庫県 休暇村南淡路

参加者数：25名(教職員含む)



淡路島に向かう途中に立ち寄った明石海峡大橋では、普段とは違った感じ方で海や風を味わいました。

第12回 Challenged キャンプが南淡路で開催されました。障がいのある学生も健常学生も、音がない・光がない・身体が動きがきかないという体験を通じて、答えの見えない問いにぶつかりながら自分自身にまっすぐ向き合う Challenged キャンプ。

今年のキャンプは25名(学生17名・教職員8名)の参加を得て、兵庫県淡路島で行いました。

宿舎に到着した後、障がい学生支援室長 梶山玉香先生のご発声を頂き結団式が行われました。

アイマスクやイヤホン、軍手をはめての食事。聞こえない・見えない体験をしながら、うずしおを「見に」行ったクルーズ。一つ一つを経験する中で、周りの人の支えがあって初めて自分がここにいることができる、と気付くと同時に、支えがないといられない存在であることにしんどさも覚えました。

キャンプを終えて、参加者からは以下のような声を頂きました。

「大学では味わえない体験」

サポートスタッフ：徳岡 築
(法学部・2年次生)

私はサポートスタッフとして車椅子介助の活動をしてきたこともあり、支援活動の中で障がい学生と接する機会も多かったのですが、「自分が知っているのは障がい学生の生活のほんの一部でしかない。知らない部分を知ることが今後の活動に役立つのでは」と思いチャレンジドキャンプへの参加を決めました。

キャンプではアイマスクをつけてご飯を食べる、車椅子のまま船に乗るなど、様々な障がい体験を通して、自身が支援を受ける立場となる貴重な経験をしました。そして、今まで自分が見ていたのは支援する側の視点に過ぎなかったと気づかされました。何より困難だったのはそれぞれ聴覚、視覚、肢体に不自由のあるメンバーがいる状態で班行動をすることです。

当初は自由行動の予定を決めることすら難しく、雰囲気が消極的になることもありましたが、しかしその後お互いが会話をするためにどこかを改善すればよいかを徹底的に話し合い、みんなで積極的にコミュニケーションをとる姿勢をつくる大切さを知りました。

チャレンジドキャンプの体験は大学構内の活動では決してできないものです。

キャンプで気づくことのできた「視点」と「積極性」をこれからの支援活動に活かしていきたいです。

「些細なことの大きさ」

サポートスタッフ：丸岡 優布子
(文化情報学部・3年次生)

一ささいなことがささいなことではない—これは、明確な意思や目的をもって支援活動を始めたわけではなかった私が、今年のチャレンジドキャンプの中で真剣に「障がい」について考え、自分と向き合う中で得た気づきです。キャンプ中、私は聴覚障がいの体験をして一日を過ごしましたが、体験中は、船の汽笛や車イスのきしむ音など「ささいなこと」が聞こえないことで、自分の周りに起こっていることがわからなくなっていました。周りの学生は、「分からない」状態になっている私に、そういった音の情報までも筆談や表情、手話を用いて伝えてくれました。

連絡事項だけではなく、一見どうでもいいようなことまで伝えてもらえることがとてもうれしくて、ありがたくて、安心感さえもありました。そして同時に、普段は「聞こえているからこそ取捨選択している情報」がいかにか多いか、ということに気づかされました。

今までのサポート活動の中で、聞こえていた自分が「これは要らないだろう」と判断して通訳してこなかった情報は、聴覚障がいのある利用学生にとってはそうではなかったかもしれない…と反省しました。キャンプで得たこの気づきを、まずは授業のサポートで活かそうと思います。周りの環境音や先生の動作など「ささいな情報」を、できるだけ利用学生に伝えるように意識しなおし、実践していきたいです。

「自分に向き合ったキャンプ」

サポートスタッフ：吉富 健太
(生命医科学部・3年次生)

今回のチャレンジドキャンプで私は「支援室でサポート活動していることを、学部など支援室以外の人たちには周知しない自分」について、グループワークで発言しました。自分には学生スタッフとして活動し利用学生の力になりたいと思う気持ちがある反面、「障がい」に関わることで周囲から奇異な目で見られるのではないかと考える節があり、そんな障がいに対する二面性を持つ自分を単独に感じて自責した経験があったからです。

障がい学生支援に関わっているメンバーの前でこんな気持ちを打ち明けるのは不安もありました。

しかしこの意見に対して参加者の方々からは、反論ではなく共感やアドバイスをもらうことができ、「支援室での活動に自信をもってほしい。周囲の人に誇れるほどの活動を私たちはやっていると思う」との意見も頂きました。その言葉を聞いただけで、これまで自分の中でよどんでいた思いが解けていって、今までよりも正直な自分に向き合えるようになったと感じました。

今回のキャンプはそんな「障がいに対する様々な思いに触れる」ことで、自分の本心に向き合える貴重な機会となりました。本当の気持ちを伝えて、本当の気持ちを受け止める。真剣なやりとりの中で、本当の自分に出会える…そんなキャンプとなりました。

2016 Challengedキャンプ行程

行き先		休暇村南淡路	
期間		2016年 9月12日(月)～9月14日(水)	
*日付	月日	スケジュール	
1日目テーマ		テーマ：私にできること、あなたにできないこと	
1 日 目	9月12日 (月)	9:00	9:00参加者集合（寒梅館西奥の和室）
		10:00	今出川出発 ⇒移動（大型バスにて約2時間）
		12:00	昼食休憩
		14:30	出発 ⇒休暇村南淡路へ移動（大型バスにて約1時間半）
		16:00	休暇村南淡路到着 ⇒結団式（梶山先生のお話）、一日目の体験のシェア
		18:00	夕食（体験あり）
		19:30	食事振り返り、2日目について諸連絡
		20:30	解散、入浴後自由時間
2日目テーマ		テーマ：私にできないこと、あなたにできること	
2 日 目	9月13日 (火)	7:00	朝食（体験あり）
		8:45	休暇村出発 ⇒ジョイボート南淡路へ（大型バスで約15分）
		9:40 までに	10:10出航の「日本丸」乗船手続きを班ごとに済ませる
		10:10	「日本丸」出航、約1時間うずしお観光
		11:20	福良マルシェへ移動、班ごとに昼食
		12:40	福良マルシェ出発 ⇒休暇村へ（大型バスで約15分）
		13:00	休暇村到着 ⇒16:00までに入浴を済ませる。自由時間。
		16:00	プログラム
		18:00	夕食（体験無し）
		19:00	プログラム
21:00	解散、自由時間		
3日目テーマ		テーマ：私とあなたにできること	
3 日 目	9月14日 (水)	7:00	朝食（体験無し）
		8:30	クロージング（日下部先生進行）
		12:00	昼食
		13:00	休暇村出発 ⇒京都駅を經由して17:00に今出川着



第12回 Challenged キャンプに行こう！

Challengedキャンプは
障がい学生と一般学生が
寝食をともにしながら
お互いの交流をはかり
本音でぶつかり合える場

音がない 光がない
身体の自由がきかないという世界を
実際に体験することで
いつもの違った視点から
見慣れた風景をみつめる
日常生活では気づかないことを
気づかせてくれる3日間

それぞれが「私」と向き合い
「あなた」と向き合い
「私たち」が向き合う
3日目最後のクロージングで
少し成長した仲間と自分に
出会うために・・・

【第12回 Challenged キャンプ 2016】

寄泊先：休暇村 南淡路
行き先：兵庫県南あわじ市南淡路町
日時：2016年9月12日(月)～14日(水) 2泊2日
参加費：12,000円(宿泊費・交通費・食費等別)
募集人数：30名 ※応募者多数の場合は書類選考
申し込み場所：南校地学生支援センター 障がい学生支援室
申し込み期間：6/13(月)～6/24(金)17:00まで
※参加決定者には6月30日(木)にメールにてお知らせします



【お問い合わせ先】 学生支援センター 障がい学生支援室
京田辺：成心館1階 TEL: 0774-65-7411 今出川：寒梅館1階 TEL: 075-251-3273
※メールでのお問い合わせはE-mail: jt-care@mail.doshisha.ac.jpへお送りください。



●オープンキャンパス

日時・場所：2016年7月24日（日）京田辺校地
2016年7月31日（日）今出川校地
協力スタッフ：8名（パソコン通訳、移動介助等）



【PC通訳をしてくれたサポートスタッフの声を紹介します】

サポートスタッフ：山川 茜（文化情報学部・1年次生）

私は京田辺、今出川の両校地で、サポートスタッフとしてオープンキャンパスに参加しました。障がいのある高校生、そしてそのご家族の方と話していると、自分が高校生だったころのことを思い出さずにはいられませんでした。

自分と同じ年頃の人たちが障がいとともに生活していることなんて、大学に入るまでは考えもしなかったことです。おそらく同志社大学に入学していなかったら、障がい学生支援室の活動を知ることもなく、そこに関わっている人たちがいることさえも知らないまま社会人になっていたと思うと恥ずかしいです。

サポートを必要としている生徒さんがいるということ、そのことを、オープンキャンパスに参加された他の高校生やご家族の方にも、知ってもらえたらな、と思った2日間でした。

●同志社京田辺クリスマス燭火讃美礼拝

日時・場所：2016年12月10日（土）
同志社女子大学 新島記念講堂
協力スタッフ：6名（手話通訳・通訳指導、職員含む）



【参加してくれたサポートスタッフの声を紹介します】

サポートスタッフ：阪上 友紀（理工学部・3年次生）

私は、クリスマス燭火讃美礼拝の手話通訳について、昨年のお礼で通訳をした友人から話を聞き、普段手話サークルで使う日常会話と手話が違うことや、クリスマス礼拝という特別な場面で使われる手話表現があるということに興味をもち、手話通訳に挑戦しようと決めました。

通訳をするにあたって、共に通訳をする仲間や手話を教えてくれる利用学生、支援室のコーディネーターさんと一緒に「見やすく・分かりやすい手話」について話し合い、練習を重ねました。

また、日常会話の手話には、手の動きと共に表情の豊かさが求められますが、礼拝の手話通訳ではいかに聖劇を妨げないように伝えるかなど、細かな違いにも気づくことができました。

本番では緊張で手が震えましたが、ナレーションや劇の台詞に合わせた手話通訳ができたと思います。

自分の担当箇所以外の通訳を見られたことも大変良い経験になりました。

手話通訳があることで聴覚障がいのある方にも、より多くの情報が伝わり、市民の方と一緒にクリスマスをお祝いできる礼拝になっていたら嬉しいです。



●障がい学生へのキャリア形成プログラム「自立支援：成績配布」

日時・場所：2016年9月23日（金）
今出川校地
参加者数：4名

●SPI3・一般常識試験対策講座

日時・場所：2016年12月1日（木）
今出川校地
協力スタッフ：3名（パソコン通訳2名、ノートテイク1名）

●第1回就職ガイダンス

日時・場所：2016年10月12日（水）
今出川校地
協力スタッフ：2名（パソコン通訳）

●業界研究（各論）セミナー

日時・場所：2016年12月5日（月）
今出川校地
協力スタッフ：2名（パソコン通訳）

●自己分析セミナー

日時・場所：2016年10月14日（金）
今出川校地
協力スタッフ：2名（パソコン通訳）

●Uターン・Iターンセミナー

日時・場所：2016年12月5日（月）
今出川校地
協力スタッフ：2名（パソコン通訳）

●エントリーシートセミナー

日時・場所：2016年10月17日（月）
今出川校地
協力スタッフ：2名（パソコン通訳）

●仕事研究セミナー

日時・場所：2016年12月5日（月）
今出川校地
協力スタッフ：2名（パソコン通訳）

●SPIセミナー

日時・場所：2016年10月27日（木）
今出川校地
協力スタッフ：4名（パソコン通訳）

●公務員業務説明会

日時・場所：2016年12月6日（火）
今出川校地
協力スタッフ：1名（パソコン通訳）

●自己分析セミナー

日時・場所：2016年11月7日（月）
今出川校地
協力スタッフ：2名（パソコン通訳）

●SPI3・一般常識試験対策講座

日時・場所：2016年12月9日（金）
今出川校地
協力スタッフ：4名（パソコン通訳2名、ノートテイク2名）

●大学院生のためのガイダンス

日時・場所：2016年11月11日（金）
今出川校地
協力スタッフ：2名（パソコン通訳）

●第2回就職ガイダンス

日時・場所：2016年12月12日（月）
今出川校地
協力スタッフ：2名（パソコン通訳）

●業界研究（各論）セミナー

日時・場所：2016年11月21日（月）
今出川校地
協力スタッフ：4名（パソコン通訳）

●公務員業務説明会

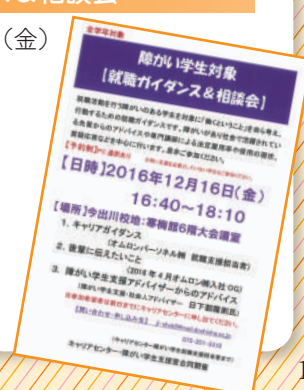
日時・場所：2016年12月13日（火）
今出川校地
協力スタッフ：2名（パソコン通訳）

●仕事研究セミナー

日時・場所：2016年11月22日（火）
今出川校地
協力スタッフ：2名（パソコン通訳）

●障がい学生対象 就職ガイダンス&相談会

日時・場所：2016年12月16日（金）
今出川校地
協力スタッフ：2名（パソコン通訳）



●公務員業務説明会

日時・場所：2016年12月21日（水）
今出川校地
協力スタッフ：2名（パソコン通訳）

●エントリーシート講座

日時・場所：2017年1月13日（金）
今出川校地
協力スタッフ：2名（パソコン通訳）

●仕事研究セミナー

日時・場所：2016年12月22日（木）
今出川校地
協力スタッフ：2名（パソコン通訳）

●内定者に就職活動体験談を聞く会

日時・場所：2017年1月16日（月）
今出川校地
協力スタッフ：2名（パソコン通訳）

●第3回就職ガイダンス

日時・場所：2017年2月15日（水）
今出川校地
協力スタッフ：2名（パソコン通訳）

●障がい学生へのキャリア形成プログラム「同志社大学生協インターンシップ」

日時・場所：2017年2月15日（水）、2月21日（火）、
2月22日（水）、3月1日（水）～3月3日（金）
両校地
参加者数：1名



学生時代に自身の障がいと向き合い、社会環境に適応できる心身の成長を目的とした自律プログラムをスタートし、2年目の取り組みです。実習生はアルバイト経験がほとんどなかったため、これから就職活動を経て社会人となるにあたり、貴重な経験となりました。

特に、実習を通して「就労できる（あるいは難しい）」とわかった職務内容に気づくことができ、またこれまで意識しなかった『お客様側からみる店員の接客態度が、その企業イメージを左右する』と知ることができたようです。

●就職体験を語る・聞く会

日時・場所：2017年3月14日（火）
今出川校地
参加者数：9名

2016年度新規の取り組みです。2016年度卒業の障がい学生支援制度を利用している障がい学生2名（肢体不自由〔手動車椅子〕と聴覚障がい）より、就職活動での経験や気づきを話してもらい、障がい学生同士が自身の障がいと向き合いながら社会人となる過程での不安や疑問を共有し懇談しました。

就職活動を終えた障がい学生当事者から、内定がもらえなかった時期の思いや失敗談、障がいがあるがゆえに伝えるべきこと、準備しておくべきことなど、踏み込んだ内容まで懇談することができました。



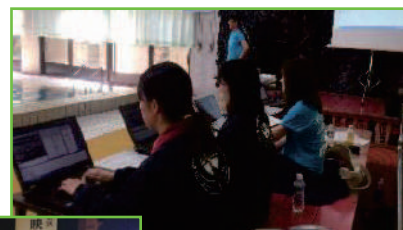
●障がい学生へのキャリア形成プログラム「成績通知書・登録書類交付」

日時・場所：2017年3月25日（土）
今出川校地
参加者数：3名

社会貢献事業

●第25回障害者シンクロナイズドスイミングフェスティバル

日時・場所：2016年5月8日（日）
京都市障害者スポーツセンター
内容：フェスティバルのパソコン通訳
協力スタッフ：4名



●上京区憲法月間 映画のつどい

日時・場所：2016年5月26日（木）
今出川校地 寒梅館ハーディーホール
内容：ユニバーサル上映「あん」と講演のパソコン通訳
協力スタッフ：4名



●第1回上京区ふくしをなんでもしとこ講座

日時・場所：2016年8月10日（水）
今出川校地 寒梅館ハーディーホール
内容：ユニバーサル上演「今日もいい天気～ご近所さんの成年後見物語～」と司法書士によるクイズのパソコン通訳、会場案内
協力スタッフ：8名



同志社大学 今出川校地寒梅館地下1階 ハーディーホールにおいて、「2016年度 第1回上京区ふくしをなんでもしとこ講座」が開催されました。講座の第1部は、ミュージカル劇団ケセラ・セラによる成年後見劇「今日もいい天気～ご近所さんの成年後見物語～」。第2部は、成年後見制度 NOW 司法書士による「しとこクイズ」が行われました。また当講座では、本学障がい学生支援室が共催となり、サポートスタッフがパソコン通訳および会場サポートを行いました。

【PC通訳をしてくれたサポートスタッフの声を紹介します】

サポートスタッフ：辻野 裕之（法学部・1年次生）

私は、「上京区ふくしをなんでもしとこ講座」にパソコン通訳サポートスタッフとして参加し、感じたことが二つあった。それは、現場では想定外のことに對しての対応力と、他のパソコン通訳スタッフとの連携協力が非常に大切だということである。今回は、登壇される方が読みあげる形で用意されていた台詞とは別の内容を話される場面があった。当然、生きた舞台であるからこそありえる場面だが、そういった場合にも慌てることなく、正確に判断をして行動しなければいけないということ、また、今回自分がパソコン通訳スタッフにフォローしてもらったように、他のスタッフとコミュニケーションをとり自分にできることがあればそれを活かして貢献することが必要だと感じた。これからも、日々精進して伝える能力を向上させ、支援活動に貢献したいと思う。



●第2回上京区ふくしをなんでもしとこ講座

日時・場所：2017年2月18日（土）
今出川校地 寒梅館ハーディーホール
内容：ユニバーサル上映「遥かなる甲子園」と講演のパソコン通訳、会場案内
協力スタッフ：8名



【PC通訳をしてくれたサポートスタッフの声を紹介します】

サポートスタッフ：大神 あずさ（神学部・2年次生）

2017年2月18日、今出川校地寒梅館地下1階ハーディーホールで行われた「第2回上京区ふくしをなんでもしとこ講座」でPC通訳活動をしました。

4人体制のPC通訳で、私は『前ロール』というあらかじめ用意された台本をスクリーン上にあけていく役割を担当しました。

初めてのPC通訳活動だったためとても緊張しましたが、PC通訳経験者3人のフォローのおかげで無事自分の役割を果たすことができました。

私は昨年の秋学期から、昼休みのPC通訳勉強会に参加してきました。勉強会で、通訳時には話を聞き取る力やタイピングの速さ、正確さだけではなく、話者の声が聞こえない聴覚障がいの方がわかりやすい文章表現を心がけるということを学びました。

今回の初めてのPC通訳活動は、勉強会で学んだことを実践する良い機会となりました。

●複合領域科目「コミュニケーションのバリアフリー」を考える—共に生きる社会をめざして—

日時・場所：2016年8月29日（月）～9月2日（金）

今出川校地

協力スタッフ：6名（パソコン通訳）

同志社大学障がい学生支援室では、支援室長を科目代表とする正課授業（複合領域科目）として、毎年8月末に夏期集中講義を開講しています。大学コンソーシアム京都へ科目提供していますので、本学学生のみならず、他大学の学生さんも受講できる科目となっています。

本講義では、学内で共に学んでいる障がい学生を取り巻く状況・実情を踏まえつつ、障がい学生とそれを支援する人々の双方が直面する「バリア」について、座学と障がい体験をおりまぜて考察しました。



●プレ・さかの映像祭

日時・場所：2016年10月27日（木）

今出川校地 寒梅館ハーディーホール

内容：さかの映像祭過去作品上映のPC通訳と対談

協力スタッフ：6名（利用学生含む）



●大阪府立中央聴覚支援学校—高等部の同志社大学見学

日時・場所：2016年11月8日（火）

京田辺校地

訪問者：支援学校教員2名 高等部1年生8名



大阪府立中央聴覚支援学校では、進路指導の一環として、高等部1年生の生徒さんが大学見学や学生との交流、情報保障（通訳）体験を通して、「大学」の見識を広げ、進路や志望校について深く考える場を設けられています。

今回は、多くの障がい学生が在籍している大学ということで、同志社大学へ体験依頼がありました。日頃キャンパスツアーを担当している学生にも協力を得て、聴覚障がい学生をはじめ支援にあたっているスタッフとともにご案内しました。

大学見学スケジュール

大学障がい学生支援室および利用学生・スタッフ挨拶
昼食交流
キャンパスツアー
同志社大学障がい学生支援制度について説明
大学および学生への質問タイム（クラブ・授業・卒業後の進路・アルバイト等について）

見学に来られた高校生より

「大学は思った以上に人がたくさんいて、やはり高校とは比べ物にならないくらい広かったです。雨だったので移動が大変でしたが、新島先生のことばが書かれた石碑や撮影スタジオ、教会などさまざまな施設を見ることができて良かったです」
 「説明のとき、手話通訳がついていたので話している内容がよくわかりました。同志社大学の情報保障の説明や通っている聾の学生さんの話を聞いてみて、私も同志社大学のように情報保障がちゃんとしている大学に通いたいと思いました。話している間、パソコンテイク（パソコン通訳）担当の二人がものすごい速さで文章を打っているのにびっくりしました」



●日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）特別プロジェクト ～2016年熊本地震により被災した大学へのT-TAC Captionによる遠隔情報保障～

日時・場所：2016年6月22日（水）～8月3日（水）

同志社大学

内容 容：2016年熊本地震により被災した大学への遠隔情報保障支援

対象大学 九州ルーテル学院大学

対象者 聴覚障がい学生1名

対象科目 水曜2講時「医療心理学」

協力スタッフ：8名（延べ）



同志社大学では、日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）特別プロジェクト「2016年熊本地震により被災した大学へのT-TAC Captionによる遠隔情報保障支援」として九州ルーテル学院大学の聴覚障がいのある学生に対し支援を行いました。

九州ルーテル学院大学は、4月に発生した熊本地震により、新学期早々から約3週間休校せざる得ない状況となりました。本来ならば同じ大学内に聴覚障がい学生を支援する学生がいますが、支援学生自身も被災していることなどから、情報保障支援が十分に実施できていない状況が発生しました。

そこで、T-TAC Caption というシステムを使用し被災地の大学の授業における音声情報、映像をインターネット回線を通して送信し、支援を担当する同志社大学の支援学生がこの音声を聞き、PC通訳をするという支援を行ないました。

1 熊本地震と遠隔情報保障の開始までの経緯

- 4月14日 21時26分 M6.5 地震発生、16日午前1時25分 M7.3 地震発生
- 5月16日 九州ルーテル学院大学より PEPNet-Japan へ遠隔支援の利用について打診
- 6月16日 同志社大学が協力大学として決定
- 6月29日～ 遠隔支援開始（6月22日は大雨で当該学生が登校できず中止）

2 遠隔情報保障の運営方法

九州ルーテル学院大学で行われている授業音声を遠隔地に飛ばし、受信した音声を遠隔地でパソコン通訳（入力）し、その文字情報を、リアルタイムで現地の聴覚障がい学生が見て受講

■対象科目名と協力大学

科目名	協力大学主担当	協力大学副担当	支援回数
医療心理学	同志社大学	大阪教育大学	4回
行動科学概論	東北福祉大学	宮城教育大学	6回

※事前資料、教科書のページ等は、講義2日前までに伝達いただく

3 遠隔情報保障を利用された九州ルーテル学院大学の利用学生（障がい学生）さんの声

利用学生

- ・支援者、関係者の方々に感謝したいです。
- ・タイピングの速さに驚きました。
- ・支援者は黒板等が見えないので、授業者が遠隔支援を理解して、配慮して話すことが重要となることがわかりました。
- ・支援者と話し合う時間があるとよいと思いました。

※日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）は、同志社大学を含む全国23大学・機関の協力により運営されている組織で、筑波技術大学に事務局が置かれています。

7 大学学生交流会

日時・場所：2016年12月17日(土)
 京都大学 百周年時計台記念館
 内容：大学の紹介発表、分科会
 参加者数：約15名(教職員含む)



【参加者の声をご紹介します】

「7 大学学生交流会を通して感じたこと」 利用学生：杉村 剛生（理工学部・1年次生・聴覚障がい）

私は今年大学に入学したばかりで、他大学の障がい学生やスタッフとの交流も皆無でした。

今回の交流会への参加も、不安があったのですが、同じグループとなった他大学のスタッフと楽しく会話をする中で、障がい者としてだけではなく、一人の人間として学べたこともあり、大変大きな経験になりました。

午後の「障がい体験を通して気付きを共有する企画」では、私のグループが聴覚障がいの体験担当となりました。聞こえない体験後のグループディスカッションでは、聴者の皆さんの発見に対し、私自身の体験を伝えることで聴覚障がい者の状況をより深く理解していただけたと同時に、スタッフの皆さんから挙げられた発見の中には、これまで私が意識していなかった問題点を新たに知ることができました。

また、障がい体験中に提示された「車いすユーザーに対する配慮」については、聴覚障がいがあってもなせるはずだった配慮を行うことができなかったことを知らされ、「今後気をつけて周囲に目を配ろう」と思いました。

閉会式では、「赤鼻のトナカイ」という歌の歌詞を通してのお話がありました。偶然なのですが、私は幼少期に手話歌としてこの歌を教わりました。クリスマスでもない時期にその歌を教わったことに違和感があり、ずっと長い間「なぜあの歌だったのか」と考え続けていました。

「赤い鼻」という他のトナカイとは違う部分や、ハンディがあっても、そのハンディを逆に活かして頑張っている姿を見てくれている人がきつという、という意味がこめられていたことに気づけたのが今から1年ほど前です。

そんな意味が含まれている歌だから、あのとき手話歌として教わったのかな？ハンディのある僕たちへのメッセージだったのかな？と理解できるようになりました。

です。今回閉会のご挨拶でこの歌詞に触れられた時には、会場にいた参加者全員がこの歌に込められているメッセージやずっと私が考えてきたことを共有できたような気がして嬉しい気持ちになりました。

この経験を活かし、障がいの有無に関わらず、それぞれの人の良いところを汲み取り、良い人間関係を構築していきたいです。

同志社大学

2016年度 登録状況		同志社大学基礎データ	
障がい学生数(単位:人)	(ご参考)	14学部16研究科	
障がい学生全体数	制度利用学生数	学生数	学部生 27,053人 大学院生 2,406人
150	40	キャンパス	京田辺、今出川
障がい学生支援スタッフ数(単位:人)		キャンパス別	京田辺 約9,000人 今出川 約20,000人
登録者数	学生 一般 合計		
245	27 272		
活動者数	143 7 150		

スタッフの募集方法

入学後のオリエンテーション期間中、サポートスタッフや利用学生による「障がい学生支援制度」についてのアナウンスを行う他、勤労アース・ホステラー設置、チラシ配布による新入生スタッフ募集の呼びかけを行っています。
 ※新入生以外にもスタッフは常時募集しているため、ポスターや掲示物を見て登録に訪れる学生も多数います。

サポートスタッフ/利用学生の主な活動

障がい学生支援

本学に在籍する障がいのある学生(Challenged)が他の学生と等しい条件下で学生生活を営むように、講義授業や机に慣れない支援を行っています。同志社大学はキャンパスが2つに分かれているため、校地によって求められるサポート内容は異なっています。

主な活動：PC相談、ノートブック、車いす介助、聴覚文字起こし、字書付け、代筆、ガイドヘルプ、点訳・点字印刷、テキスト校正など

学内イベント

夏期休暇中には、障がいのある学生も障害者学生も、音が聞こえない・光が眩しい・身体が自由がきかないという体験を通して、音の聞こえない視覚に訴えかけながら自分自身にまつく様々なChallengingなことが実施されます。

今年も新入生に向けて、アイマスクやイヤホン、車手をはめての食事、見えない・聞こえない体験をしながらのうすしおクイズ、ひとつひとつを体験する中で、支えてくれる人がいて初めて自分ごとになることができると同時に、支えられないという存在であるというしんじきに気づきました。そういった本当の気持ちを伝え、受け止め、真剣なやり取りの中で本当の自分に出会える一そんなキャンパスになりました。

学生によるスキル向上勉強会

未活動のスタッフや活動を目指すため、また、活動中のスタッフがよりスキルを磨くために、利用学生と先輩スタッフの講師とわり、変換コーディネーターと共に勉強会を実施しています。

今出川・京田辺の各校地で求められるサポート内容が異なるため、それぞれニーズに合わせた講座を開講しています。

開講講座：車いす介助/ガイドヘルプ講座、PC活用講座、ノートブック講座、障がい体験講座など

社会貢献

上京区社会福祉協議会主催の「ふくしをなんでもしっくこ講座」や「上京区憲法発問問答のつどい」、障がい者のエンゲージメントの促進大会(シンポジウム)「インクルーシブな未来」でのパネリスト、聴覚障がい者の権利に関する「さかの聴覚祭」のプレゼンターである「ブレ・さかの聴覚祭」の協力など、社会貢献活動も行っています。

2016年度 近畿地区障害者学生支援協議会 7大学学生交流会

<交流会のあらまし>
 日本障害者学生支援教育支援ネットワーク(FEPNet-Japan)の平成24年度事業として、同志社大学を中心に、大阪大学、大阪教育大学、関西大学、立命館大学、関西学院大学の6大学が、地域ネットワーク形成事業を立ち上げました(合同会議の実施)。

平成25年度以降も引き続き、関西の高等教育機関間の障がい学生支援について、大学間ネットワークの形成及び関係性を育み活動していくことになり、その一環として、平成25年3月に、6大学支援室に属する第1回交流会が実施されました。平成25年からは京都大学も加わり、「近畿地区障害者学生支援協議会」と名称を変更し、今年度で交流会は4回になります。

タイムスケジュール	業 務	内 容
10時30分	開会	
11時00分-11時10分	開会の熱いきつ	
11時10分-11時20分	挨拶	
11時20分-12時30分	アイスブレイク (大勢でゲーム:主催 関西学院大学)	
12時30分-13時20分	委員会および各校地の定例会議	定例会をとりながら、各大学の大学部各分科会科をともに懇話、交流
13時20分-14時00分	京大異文化ツアー (案内役: 京都大学)	
14時00分-16時10分	グループワーク (Think & Act 1→大学生生活を考えよう1):主催 関西学院大学)	14:00-14:10 趣旨説明 14:10-14:25 休憩時間 14:25-14:50 模擬授業 14:50-15:35 グループディスカッション 15:35-15:45 ~休憩~ 15:45-15:55 体験発表・グループ発表 16:05-16:10 までの
16時10分-16時20分	全体総括・コメント	
16時20分-16時25分	閉会挨拶	
16時25分-16時30分	アンケート	
16時30分-16時45分	閉会式(参加賞)	
16時45分	集合写真撮影(くすのき前 雨天時は3階) 終了後、解散	

※総合発表・全体説明の情報は、京都大学運営スタッフ学生が行います。
 ●グループでの情報提供については、グループ内で方法や役割分担を話し合ってから実施してください。

同志社大学障がい学生支援室について

● 2016年度 障がい学制支援制度 スタッフ登録・活動状況

スタッフ登録状況

(単位：人)

2016年度	スタッフ	学生	一般	合計
春学期 (7月現在)	登録者数	245	27	272
	活動者数(4月～7月)	143	7	150
秋学期 (2月現在)	登録者数	226	26	252
	活動者数(10月～1月)	127	0	127

適当たりの派遣コマ数 (2016年春)

(単位：コマ)

活動内容	今出川		京田辺		合計
通訳	PC+PC (遠隔含む)	17	PC+PC	28	45
	PC+PC+NT (遠隔含む)	0	PC+PC+NT (遠隔含む)	2	2
	学外への遠隔支援	1	学外への遠隔支援	0	1
	PC+NT	0	PC+NT	10	10
	NT+NT	0	NT	2	2
代筆・ポイントテイク	18		18		36
車椅子等介助(講義補助/食事/トイレ/ストレッチ他) 休憩時間の支援含む	82 (内ヘルパー対応37)		3		85
視覚障がい介助(ガイドヘルプ/対面朗読/講義補助)	76		—		76
合計	194		63		257

適当たりの派遣コマ数 (2016年秋)

(単位：コマ)

活動内容	今出川		京田辺		合計
通訳	PC+PC (遠隔含む)	12	PC+PC	26	38
	PC+PC+NT (遠隔含む)	0	PC+PC+NT (遠隔含む)	2	2
	学外への遠隔支援	0	学外への遠隔支援	3	3
	PC+NT	0	PC+NT	3	3
	NT+NT	0	NT	2	2
代筆・ポイントテイク	8		12		20
車椅子等介助(講義補助/食事/トイレ/ストレッチ他) 休憩時間の支援含む	52 (内ヘルパー対応40)		1		53
視覚障がい介助(ガイドヘルプ/対面朗読/講義補助)	34		—		34
合計	106		49		155

※ PC通訳・NTは、障がい学生1名に対して、学生サポートスタッフ2名で支援
 ※代筆は、障がい学生1名に対して、学生サポートスタッフ1名で支援※トイレ・身体・食事介助については、両校地ともヘルパー対応も有
 ※字幕付け・文字起こし等の突発的な支援、正課外の行事支援、勉強会等講師派遣は除く

同志社大学障がい学生支援室の年間スケジュール

- 4月** 入学式
 (障がいのある新入生および保護者の方へのサポート・式典通訳・学部説明会対応)
 オリエンテーション期間
 (新入生サポート対応・スタッフ勧誘)
 新入生面談
 春学期 制度利用学生へのコーディネート
 (派遣内容確認→派遣調整→配慮依頼と派遣)
 制度スタッフへのコーディネート
 (顔合わせ会→登録手続き→活動内容確認→派遣調整)
 制度説明会・入門講座
 フォローアップ勉強会
- 5月** 新入生歓迎会
 第25回障害者シンクロナイズドフェスティバル
 (パソコン通訳スタッフ派遣)
 フォローアップ勉強会
- 6月** フォローアップ勉強会
- 7月** 春学期末試験のコーディネート
 オープンキャンパス
 (模擬講義・学部紹介でパソコン通訳・ノートテイクの支援・利用学生による障がい支援室の制度説明)
 フォローアップ勉強会
- 8月** 春学期末懇談会
 複合領域科目：「コミュニケーションのバリアフリー」を考える(5日間集中講義)
 寒梅館夏祭り
 上京区ぶくしをなんでもしつとこ講座～なんでもしつとこやつとこ～(8月、2017年2月に開催)
 ガイドヘルプおよび車椅子介助の講習会
- 9月** Challengedキャンプ(2泊3日)
 障がい学生対象 キャリア体験プログラム
 (キャリアセンターとの共催)
 利用学生面談
 秋学期 制度利用学生へのコーディネート
 (面談→派遣内容確認→派遣調整→配慮依頼と派遣)
 制度説明会・入門講座
 障害学生支援大学長連絡会議(京都 Brightonホテル)
- 10月** フォローアップ勉強会
 全国高等教育障害学生支援協議会(東京大学)
- 11月** フォローアップ勉強会
 障がい学生対象就職ガイダンス
 新年度予算案作成
- 12月** フォローアップ勉強会
 クリスマス燭火讃美礼拝
 第11回 日本聴覚障害学生高等教育支援(PEPNet-Japan) シンポジウム
 JASSO拠点校専門テーマ別障害学生支援セミナー
 7大学合同交流会
- 1月** 秋学期末試験のコーディネート
- 2月** 教職員研修会
 秋学期末懇談会
 新年度スケジュール作成
 各種パンフレット ガイド作成
- 3月** 利用学生(在学)面談
 次年度新規で制度利用者の面談
 (本人・保護者・学部・教務主任・支援室)
 次年度スタッフ強化勉強会
 卒業式(式典通訳・サポート)

同志社大学障がい学生支援室について

1. 本学における障がい学生支援について

同志社大学の障がい者支援は1949年に遡る。入学試験において、日本の大学で初めて点字受験の対応を開始した。1975年、点訳・墨訳担当者を配置し、試験問題の点訳を開始。1982年には学長の諮問機関として「障害者問題委員会」を設置し、これを契機に今出川校地内建物入口スロープや自動昇降機を設置、1984年からは語学テキストの点訳業務を開始した。

1986年、京田辺校地の開校にあたり、キャンパスの基本設計から全面的なバリアフリー化をはかり、図書館内には点字室や対面朗読室を設けた。

2000年3月、「障害者問題委員会」からの学長宛て答申を契機として同年5月「障がい学生支援制度」がスタートし、翌2001年に同委員会からの再答申により、講義補助から講義保障へと一段と踏み込んだサポートが開始された。この際、一部の支援で、サポートスタッフの活動を有償化した。

2002年には「障害者問題委員会」を「ノーマライゼーション委員会」と名称変更し、学内の障がい学生の総合的相談窓口を、学生部（現在の学生支援センター障がい学生支援室）に一本化、2004年、今出川・京田辺の両キャンパスに常勤の障がい学生支援コーディネーターを配置し、日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet - Japan）の連携協力を開始した。

2006年には日本学生支援機構（JASSO）の「障がい学生就学支援ネットワーク事業」の拠点校として連携協力を開始し、2007年にはアシスタントスタッフ（有償）とボランティアスタッフ（無償）を統一し、「サポートスタッフ」として全支援を有償化した。

2008年、「ノーマライゼーション委員会」を発展解消し、「学生主任連絡会議」に整備・再編し、学生支援センター内に「障がい学生支援室」を設置した。

2009年秋より、事務組織上、障がい学生支援室を京田辺校地学生支援課に一元化した。

2. 障がい学生支援に関する指針（ガイドライン）制定について

2012年度の障がい学生支援室の取組みとして、一つは2013年度から大学の事務組織として「障がい学生支援室」を実態化したことと、本学における障がい学生支援の基本姿勢を明確にするため「障がい学生支援に関する指針（ガイドライン）」を制定したことがあげられる。

同指針（ガイドライン）では、基本原則の中で学長のリーダーシップによる効果的な支援の取組みや「合理的配慮」に基づく成績評価、大学と障がいのある学生本人との十分な合意形成、共通理解による支援内容の決定などを明記した。

今後の本学におけるさまざまな障がいのある学生に対する支援にあたって、全学的な基準となる指針（ガイドライン）制定となった。

3. 障がい学生支援室（2017年3月31日現在）

専属の障がい学生支援コーディネーターが常駐しており、障がいのある学生に対して学生サポートスタッフの協力を得て、授業保障に関わるサポートを行う。（授業保障とは、障がいのある学生が希望するすべての授業について、一般学生と同じレベルで受講できるよう保障することである）。

1) スタッフ

マネージメント（教員1名、職員2名）
コーディネーター（4名 内1名は手話通訳者）
事務補佐員（5名）

障がい学生支援に関する指針（ガイドライン）

本指針（ガイドライン）は、同志社大学における障がいのあるすべての学生に関わる修学支援について定めるものとする。

1. 基本原則

- 1) 同志社大学は、本学に在籍する障がいのある学生が健常の学生と等しい条件のもとで、学生生活が送れるよう授業保障、情報保障を中心に修学支援を行うものとする。
- 2) 学長は、本指針（ガイドライン）に定める目的を達成し、効果的な支援を遂行するため必要な規程の整備、予算措置を講ずるよう努めるものとする。
- 3) 修学支援は、本学におけるこれまでの先進的な取組みをもとに行うものとする。
なお、支援内容の判断が困難な場合には、障害者基本法に定める「合理的配慮」並びに文部科学省の「障がいのある学生の修学支援に関する検討会」報告（第一次まとめ）が定める基準、取扱いを参考とする。
※「合理的配慮」等については、別紙、【参考】資料参照。
- 4) 障がいのある学生に対する修学支援は、原則として本人（及び保護者）からの支援要請に基づき行うものとする。
- 5) 成績評価については、「ダブル・スタンダード」は設けない。その他、具体的な修学支援内容は、原則として受験時、入学時、学年変更時の面談の際、大学（学部、障がい学生支援室等）と本人（及び保護者）が、十分な合意形成・共通理解を図ったうえで決定し、大学から提供するものとする。
ただし、支援内容の決定時期については、本人の障がいの程度、合意形成・共通理解が得られた時期等を勘案し、柔軟に対応するものとする。

2. 修学支援内容について

- 1) 前掲の基本原則のもとに、障がいのある学生の一人ひとりの修学支援の要望に基づき、大学の関係部署が緊密に連携、協力して個別対応を行う。
- 2) 個別対応の具体的事例は、別途、定める。
- 3) この指針（ガイドライン）に関する事務は、学生支援センター障がい学生支援室が行う。
- 4) この指針（ガイドライン）の改廃は、学生主任会議の審議を経て、学長が決定する。

付 則

この指針（ガイドライン）は、2015年4月1日から施行する。

【参 考】

- 1) 国連・障害者の権利に関する条約について
・「障害者の権利に関する条約（以下、「障害者権利条約」という。）」は、2006年12月に国連総会で採択され、2008年5月に発効した。日本は、2007年9月に同条約に署名しており、2011年8月に障害者基本法の改正を行うなど、条約締結に向けた取組が進められている。
・「障害者権利条約」では、第24条（教育）において、教育についての障がい者の権利を認め、この権利を差別なしに、かつ、機会の均等を基礎として実現するため、障がい者を内包する教育システム等を確保することとし、その権利を確保するものひとつとして、「個人に必要とされる合理的配慮が提供されること」とする。
- 2) 高等教育における「合理的配慮」について
・高等教育における「合理的配慮」（reasonable accommodationの訳語）の定義については、2012年12月に出た文部科学省の「障がいのある学生の修学支援に関する検討会」報告（第一次まとめ）（以下、「報告（第一次まとめ）」という。）で定めたものに準拠するものとする。
・「障害者基本法」第4条では、「社会的障壁の除去は、それを必要としている障害者が現に存し、かつ、その実施に伴う負担が過重でないときは、それを怠ることによって前項の規定に違反することとならないよう、その実施について必要かつ合理的な配慮がなされなければならない」としている。
- 3) 障がいのある学生の定義とその範囲について
・障害者基本法第2条では、障がい者とは「身体障害、知的障害、精神障害（発達障害含む）、その他の心身の機能の障害（以下、「障害」という。）がある者であって、障害及び社会的障壁により継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける状態にあるもの」と定める。また、社会的障壁とは、「障害がある者にとって日常生活又は社会生活を営む上で障壁となるような社会における事物、制度、慣行、観念その他一切のもの」と定義している。
したがって、「障がいのある学生」の範囲は、「障がい及び社会的障壁により継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける状態にある学生」とする。（報告（第一次まとめ））
- 4) 学生の範囲、学生の活動の範囲等その他の事項について
・学生の範囲（正規学生、聴生など）、活動の範囲（授業、課外活動、学校行事等）、合理的配慮の考え方（機会の確保、情報公開、決定過程、教育方法等、支援体制、施設・設備）については、報告（第一次まとめ）の定めに準拠するものとする。
・上記に記載したもの以外で、その他必要となる事項については、当面の間、報告（第一次まとめ）の定めに準拠するものとする。

以上

障がい学生支援に関わる流れ

1937年	ヘレンケラー女史、本学で講演
1949年	大学入学試験において点字受験対応を開始（日本の大学では初）
1975年	教務課（今出川校地）に非常勤の点訳・墨訳担当者を配置 試験問題の点訳を開始、1984年度より語学テキストの点訳業務開始
1982年	大学長の諮問機関として「障害者問題委員会」設置（1982年4月）を契機に、以後順次今出川校地内の建物入口スロープや自動昇降機等を設置
1986年4月	京田辺校地設計にあたりバリアフリー化を企図、図書館内に点字室と対面朗読室を開設
1991年	視覚障がい者用ワープロ購入と同時に図書館（今出川校地）内に点字室を設置
1992年4月	教務課（今出川校地）に常勤の点訳・墨訳担当者を配置
2000年5月	障害者問題委員会からの学長宛答申（2000年3月）を契機として「障がい学生支援制度」がスタート（予算管理は教務課） ・障がい学生の把握と相談窓口 ・正課授業保障の体系化（教科書点訳は基本的に大学が責任をもつ） ・障がい学生の人的支援制度 ア）「障がい学生支援連絡会」を設置 イ）学生課（京田辺校地）によるボランティア（ノートテイク・PC 通訳）学生派遣 ウ）奨励金制度の導入・懇談会の開催
2001年10月	障害者問題委員会からの学長宛答申（2001年8月）を契機として「講義補助」から「講義保障」へ制度の逼りなおし ・講義保障には、ボランティアスタッフ（主に視覚障がい学生及び肢体不自由学生への学生生活支援（無償））に加え、アシスタントスタッフ（聴覚障がい学生への講義通訳（有償））制度を導入
2002年	予算管理を学生課（京田辺校地）に移す 「障害者問題委員会」を「ノーマライゼーション委員会」と名称変更
2002年1月	学生課（京田辺校地）に常勤の手話通訳担当者を配置
2003年	「障害」の「害」について、人を意味するときのみ「障がい」とする旨を決定、採用 大学院生に対しては可能な範囲で補助をする「講義補助」という立場を明確化
2004年4月	両校地に常勤の障がい学生支援コーディネーターを配置 肢体不自由者（電動車イス専用）用トイレ設置
2004年5月	学生部再編により学生支援センターへ名称変更
2004年10月	日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）への連携協力開始
2005年3月	両校地の全ての教室棟扉・トイレに点字シールと対応墨字シール貼付
2005年5月	JR 福知山線脱線事故学生に関して「障がい学生特別支援体制」で対応
2005年9月	学際科目「学びのバリアフリーを考えるー障がい学生支援ー（聴覚障害への講義保障を通して）」の運営協力を開始
2006年10月	日本学生支援機構（JASSO）の「障害学生修学支援ネットワーク事業」に拠点校として連携協力開始
2007年4月	アシスタントスタッフ（有償）とボランティアスタッフ（無償）を統一し、「サポートスタッフ」として全支援有償化
2007年10月	障がい学生キャリア支援セミナーをキャリアセンターと協力・開催
2008年4月	「ノーマライゼーション委員会」を発展解消し、「学生主任連絡会議」に整備・再編 障がい学生支援窓口を「障がい学生支援室」と呼称
2008年10月	第4回 PEPNet-Japan シンポジウム「聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト 2008」にて Challenged キャンプ（2005年より年1回開催）の発表で PEPNet-Japan 賞を受賞
2009年4月	学生支援機構を設置し、4つのセンター（学生支援・保健・カウンセリング・キャリア）が連携し、組織的かつ総合的な学生支援体制を構築
2009年11月	「障がい学生支援室」を学生支援センター・京田辺校地学生支援課に一元化
2010年11月	第6回 PEPNet-Japan シンポジウム「聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト 2010」にて心のバリアフリーをめざしてと Challenged キャンプの発表で準 PEPNet-Japan 賞を受賞
2011年5月	PEPNet-Japan 連携協力校として東日本大震災により被災した大学への遠隔情報保障支援を開始
2011年9月	障害学生修学支援ブロック別地域連携シンポジウムを日本学生支援機構と共催
2011年10月	PEPNet-Japan 「障害学生支援大学長連絡会議」に開催校として協力
2012年12月	第8回 PEPNet-Japan シンポジウム「聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト 2012」にて「同志社の実り～そだてる・つながる・ひろがる～」の発表で2度目の PEPNet-Japan 賞を受賞
2013年2月	同志社大学障がい学生支援に関する指針制定
2013年4月	学生支援センター・障がい学生支援室を大学事務分掌規程に明記
2013年12月	PEPNet-Japan が「平成 25 年度バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰」において「内閣総理大臣表彰」を受賞
2014年4月	コーディネーター1名増員（4名体制） 今出川・京田辺両校地フリーアクセスマップ製作
2014年12月	「人」を意味するときに加え「人の状態」を表す場合も「障がい」と表記を統一することを決定
2015年2月	同志社大学障がい学生支援に関する指針改正
2015年6月	PEPNet-Japan 遠隔情報保障事業モデル校採択
2015年11月	生活協同組合におけるインターンシッププログラムを実施
2016年6月	PEPNet-Japan 特別プロジェクトとして熊本地震により被災した大学への遠隔情報保障支援を開始

京田辺校地



今出川校地



入学式の手話通訳とパソコン通訳について

聴覚に障がいのある学生・ご家族のため、**入学式では手話通訳とPC通訳**を実施しています。また、視覚に障がいのある学生・ご家族のためには、希望があれば**点字の式次第**を準備いたしますので3月上旬までに障がい学生支援室までご連絡ください。



～障がい学生支援制度に関する申込み・問い合わせ～

学生支援センター 障がい学生支援室

公式HP (<http://challenged.doshisha.ac.jp/>) Office of Student Disability Services

障がい学生支援室では専属のコーディネーターが常駐しており、障がいのある学生の学生生活支援を行っています。お気軽にお越しください。

■京田辺校地 成心館 1階

〒610-0394 京田辺市多々羅都谷 1-3
Tel 0774-65-7411 / Fax 0774-65-7024
E-mail : jt-care@mail.doshisha.ac.jp

■今出川校地 室町キャンパス 寒梅館 1階

〒602-0023 京都市上京区烏丸通上立売西入御所八幡町103
Tel 075-251-3273 / Fax 075-251-3099
E-mail : ji-care@mail.doshisha.ac.jp

■今出川校地 今出川キャンパス 待辰館 1階

Tel 075-251-3261 / Fax 075-251-3299

■開室時間 平日：9:00～17:00 (11:30～12:30 閉室)

* 休暇中は開室時間が異なりますのでHP・掲示板でご確認ください。